

まちの話題



富士見小唄ニューバージョン曲に合せリズムカルに踊るカゴメ(株)の皆さん



多摩市や川崎市からも多勢の皆さんが参加しました

富士見オッコー祭



ミズオッコウに選ばれた3人。右から斉藤尚子さん、三井絵理奈さん、功力亜希子さん

第20回富士見OKKOH(オッコー)祭りが7月26日(土)に行われました。午前中は町の多目的広場でゲートボール大会、町民センター体育館で小学生ドッチボール大会が行われ、午後は各種団体が各々趣向を凝らしたイベントを富士見・富里商店街の露地等で行い、祭りの雰囲気を出していました。どこの会場も小学生、親子連れの皆さんで賑わっていました。

夕方6時30分からは一大イベントの「オッコー踊り」が始まり、昨年を上回る35の踊連千100人以上が参加しました。今年は富士見小唄のニューバージョン曲が流れ、自分達で考えた振付けの踊りを披露し大変盛り上がりました。多摩市、川崎市からも多数参加され、多摩市長も踊りの輪に参加していただきました。

定年を過ぎると現役時代の交遊も年ごとに薄れ、最近富士見に関わる人々との交わりが多くなり、富士見への帰省しても富士見会での「つつじ祭」に昨年、今年と参加しました。「オッコー祭り」「文化祭」も参加する機会を作り同郷出身者と逢うことを楽しみにしております。また、境小中学校の同級会へも一昨年来出席して旧友との親睦を暖めております。

当時は境だけでも約80名近い同級生があり、再会して最初は顔と名前が思い出せないが話をすればすぐ50年の空白も埋まり、楽しい一時を過ごすことが出来ます。本年も10月に富士見高原での開催を楽しみにしています。

最近新聞の信州に関わる内容がよく眼にとまり、先日

望郷雑感



小林七郎
千葉県千葉市
(高森出身)

読売新聞に「日本水大賞」受賞者たちの成果の中に富士見高校環境保護会が三年前に奨励賞を受賞し、今も「農業排水の浄化実験で木炭と水生植物クレソンの浄化能力を調べた成果を生かし、姿を消したホテルの復活で昨年遂に百数十匹のホテルを呼び戻すことに成功した」との記事を見て、昨年の家族慰安会の折りに役場の人が入笠山にスズランを千五百本移植したとの話と合せ、子供の頃お盆花に取りに行った桔梗やオミナエシも少なくななり、大泉や釜無川のカジカやヤマメも姿を消してしまつたのかと思うにつけ、生まれはどこですかと聞かれた時に大きな顔で信州富士見ですと云える、自然が豊かな故郷であつてほしいと思つていきます。

(次ページに続く)

ふるさとのみなさんへ 東都高原富士見会だより